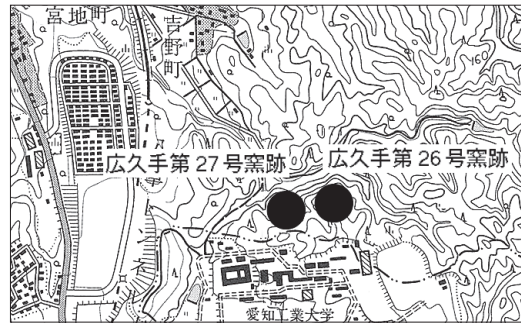


ひろくて 広久手第 26 号窯跡 範囲確認調査

所在地 瀬戸市広久手町
調査理由 若宮八草線建設にともなう事前調査
調査期間 平成 11 年 12 月
調査面積 100 m²
担当者 北村和宏・小澤一弘・織部匡久



調査地点 (1/2.5 万「瀬戸」)

広久手第 26 号窯跡は、瀬戸市南部、愛知工業大学の北側の丘陵内に位置する。

調査は、遺跡の範囲確認調査として実施したものである。平成 10 年に磁気探査がおこなわれており、複数基の窯本体の存在が推定されていた。そうした探査結果および遺物の散布状況をふまえて、総計で 13 箇所のトレンチを設定した。調査の結果、窯本体は磁気探査の所見とは幾分離れた位置で 1 基検出されるにとどまり、その下方斜面から谷底にかけて灰原が検出された。出土遺物には山茶碗・小皿および各種古瀬戸製品が認められた。



T. 9-B 窯体検出状況

(北村和宏)

広久手第 27 号窯跡 範囲確認調査

所在地 瀬戸市広久手町
調査理由 若宮八草線建設にともなう事前調査
調査期間 平成 11 年 12 月
調査面積 100 m²
担当者 北村和宏・宇佐見 守・魚住英史



T. 02 SY 02 検出状況

広久手第 27 号窯跡は、瀬戸市南部、愛知工業大学の北側の丘陵内に位置する

山茶碗窯で、いわゆる瀬戸古窯跡群に所属する。今回の調査は、遺跡の範囲確認調査として実施したものである。平成 10 年に磁気探査がおこなわれており、3 箇所で窯本体の存在が推定されていた。そうした探査結果および遺物の散布状況をふまえて、総計で 25 箇所のトレンチを設定した。調査の結果、推定された 3 箇所で 2 箇所で窯体 (SY 01・02) が検出され、その下方斜面から谷底にかけて灰原が検出された。出土遺物はそのほとんどが山茶碗・小皿で、古瀬戸製品は数点が認められたにすぎない。

(北村和宏)